

Q 定年後、ボランティアに参加できますか？

団塊の世代が次々と定年を迎え、第2の活躍の場として、海外ボランティアに関心を持つ人が増えている。そんなシニア世代を途上国へ派遣する「シニア海外ボランティア」とは。



(上) 募集説明会では個別相談も受け付けている
(左) カンボジアの人々にとって貴重なタンパク源となる淡水魚やエビの養殖技術を指導するシニア海外ボランティア (撮影: 今村健志朗)

JICA 青年海外協力隊事務局
選考課

大関 郁

PROFILE

大学卒業後、2006年にJICA就職。東南アジア第一部(当時)とラオス事務所で研修後、07年4月より現職。シニア海外ボランティアの募集・選考を担当。



「その方の意志にかなうよう 要請とのマッチングを行います」

他方で最近では、特別な技術や経験がなくても応募できる職種が徐々に増えています。例えば、青少年に倫理やモラル、家族の大切さなどを教える活動や、趣味の手芸や料理を障害者のリハビリとして指導する活動など

シニア世代の持つ技術や経験は、開発途上国で非常に求められています。募集は春と秋の年2回※1。毎回300〜400件のボランティア受け入れの要望(要請)が各途上国政府より上がってきますが、中でも応募が集中するのは、日本の高度経済成長を支えてきた生産性向上や品質管理といった専門分野(職種)です。また、柔道や合気道など長年続けてきたスポーツを教えてみたいという人も多いです。活動が1〜2年間※2に及ぶため、自分の持つ技術や専門性とマッチした職種のほうが、無理なく活動を続けられると思います。

A シニア海外ボランティアは、40〜69歳の日本国籍を持つ方ならどなたでも応募できます。今年度の春募集では918人もの応募があり、うち半数以上が60代。定年や早期退職で仕事が一段落したこの時期に、次のライフステージの過ごし方として海外ボランティアを考える人が増えているようです。「若いとき青年海外協力隊に参加しなかったけれど、家族がいたので断念した」という人、「妻と行った旅行先で貧困の現実を目の当たりにし、自分も何かしたいと思っただ」という人など、応募動機はさまざまです。

です。「何かやりたいけれど、自分が何ができるのか分からない」と悩んでいる人は、電話または募集時期に全国各地で開かれる説明会で、個別相談も受け付けていますので、気軽に相談してみてください。

そして、多数のシニアの方が心配されるのが、治安と健康管理、語学。場所によって夜間外出が禁止になる場合もありますが、JICAでは各種の安全対策を実施していますので過度の心配は不要です。また現地では、その土地特有の病気にかかったり、疲労の蓄積で体調を崩す人もいますが、そんなときは各派遣国にいる健康管理員※3が相談に乗ってくれます。また健康診断のため、日本に一時帰国する制度もあります。語学に不安がある方も、派遣前訓練と訓練開始前の事前学習※4でJICAがサポートしていきます。

シニア世代での海外ボランティア挑戦は、一大決心のことと思います。JICAとしても、できる限りその方の意志にかなうよう、要請とのマッチングを行いたいと思っています。

世界も、自分も、変えるシゴト。

<http://www.jica.go.jp/activities/sv/>
募集概要や経験談などはこちらから!

シニア海外ボランティア
で
検索

※1 日系社会シニア・ボランティアは秋募集の年1回。 ※2 1年未満の短期ボランティアもある。

※3 周辺国の健康管理員が兼轄する場合もある。 ※4 英語、スペイン語、シハラ語はインターネット上で、その他の言語は紙ベースで基礎編を学ぶ。